

政策討論会会議録

平成28年2月6日（土）

開 会（午後2時0分）

植竹副委員長

ただ今より、「所沢市議会 市民文教常任委員会 政策討論会」を開会いたします。この度の政策討論会は、閉会中の特定事件「市民文化について」のうち「文化財保護のあり方と今後について」の審査の一環として行うものです。

本日はご多忙中にもかかわらず、多数のご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます、所沢市議会市民文教常任委員会副委員長の植竹成年でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、所沢市議会では、今まで、4回の政策討論会を開催してまいりましたが、今回は、常任委員会によるはじめての政策討論会となります。当委員会では、先進地への視察や委員会での審査を重ね、所沢市の文化財保護について検討してまいりましたが、この討論会の中で、さらに議論を深め、今後の委員会で活用していきたいと考えています。

本日の次第としては、お手元にもありますように、第1部として高橋一夫先生による基調講演、第2部において市民文教常任委員会委員による政策討論会の2部構成となっています。1部と2部の間には、

10分程度の休憩を予定しております。

本日は、短い時間でございますが、有意義なものとなりますよう、議員一同励んでまいりますので、是非とも最後までお付き合いいただきますようお願いいたします。

それでは開会にあたり、市民文教常任委員会委員長の石本亮三より挨拶申し上げます。

石本委員長

お寒い中、多くの方に足を運んでいただきありがとうございます。

このたび、所沢市議会としてはじめて委員会主催の政策討論会を開催させていただきます。今まで4回開催しておりますが、テーマを決めて各会派からメンバーを選出して行ってきたものですが、今回は、委員会で調査を重ね、行うことになった運びです。さて、私たち市民文教常任委員会では、平成14年に所沢市立博物館基本構想策定委員会報告があったことと、今年度の教育総務部長目標に「収蔵庫設置事業を推進するため、昨年立ち上げたプロジェクトチームを中心に検討結果報告書の作成業務を進めます」と掲げていることから、文化財を取り上げることにしました。そしてまず、9月に柳瀬・中富・山口の3つの民俗資料館への視察を行い、10月には川越市立博物館と朝霞市博物館の収蔵施設の視察に行っていました。その後、文化財行政がどうなっているのか、経過の確認等を含めて11月に閉会中特定事

件として審査を行い、12月には参考人としてさいたま民俗文化研究所所長の大舘勝治氏と所澤郷土美術館長の平塚宗臣氏にお越しいただき、所沢市の文化財行政について意見を述べていただきました。そして1月15日には戸田市立郷土博物館へ視察に行きました。戸田市では図書館と同じ建物内に郷土博物館を設置しており、珍しい事例として収蔵施設も見て参りました。こうしたことを踏まえて政策討論会を行おうということになりました。文化財行政は、これまで脚光を浴びてこなかったという面もありますが、委員全員、最低限の勉強はしてきたつもりでございます。第2部の政策討論会、ご満足いただけるかわかりませんが、私たちの勉強の成果も含めて、それぞれの議員からいろいろな意見が出るかと思いますが、よろしく願いいたします。

ではまず、高橋一夫先生の基調講演をお聞きいただき、文化財行政の今までの課題や知らなかった視点など、皆様もご確認いただければと思います。大変雑駁ではございますが、委員会を代表しての挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。

【第1部 基調講演 文化財保護はなぜ必要？】

植竹副委員長

それでは、本日の基調講演の講師であります高橋一夫先生を紹介いたします。

高橋先生におかれては、御多忙の折、基調講演の講師をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

さて、高橋先生は、1972年に國學院大学大学院修士課程を修了されました。埼玉県立博物館学芸員へ就任され、以降、県の文化財保護課長兼埋蔵文化財センター所長、県立歴史と民俗の博物館館長等を歴任されました。また、先生におかれては、歴史学の博士号を取得されています。現在は、埼玉考古学会会長、国士舘大学非常勤講師等として文化財保護の分野でご活躍されていて、多数の著書を執筆されています。

それでは、「文化財保護について」、高橋先生から基調講演をいただきますと存じます。高橋先生、よろしく願いいたします。

講師

本日はお招きいただきましてありがとうございます。

文化財保護はなぜ必要か、これは大変難しいテーマです。私は、埼玉県職員として勤務し、文化財行政に携わってきました。文化財行政についても見てきましたが、私の知る限り、このような市議会の常任委員会で「政策討論会」という形で文化財について議員が討論会を行うということは、初めての経験です。これは、市議会の見識の高さかと思いますが、それは、すなわち市民の意識の高さであります。私は、現在、大学で非常勤講師としても活動していますが、素面のときはあまり話がうまくありません。酒が入った高橋の話は面白いとの定評がありますが、昼間から酒を飲み話すわけにはいきませんので、やさしく、文化財保護の必要性について、私の考えているところで話を進め

ていきたいと考えています。

さて、博物館を知るには、もう一つの施設、図書館と比べると理解しやすいかと思います。私は日頃、図書館によく行きます。博物館は入館料を取ることがほとんどですが、あまり展示物が変わるものではありません。もちろん、たまには展示物の変更も行いますが、一般人の多くはなかなか興味を持ちません。年に何回かは、特別展も行いますが、これも入館料を取られます。

ところが、図書館は無料で利用でき、本の貸し出しもしてくれます。リクエストをすれば、本の購入をしてくれる図書館もありますし、予約対応もしてくれます。私は、図書館の大ファンです。図書館では何万冊という本を扱っています。通常であれば、傷をつけたり、紛失等しても、お金で弁償すれば事足りるわけです。

しかし、博物館の場合は文化財であり、1点しかないものを扱っているわけです。そのため、それを個人の方や取り扱いの作法を知らない人には貸し出すわけにはいかないのです。そういった点で、博物館と図書館の大きな違いがあるわけです。博物館では、そうした貴重なものを収集、展示し、保管するという業務があるわけですが、地方の博物館は、なかなか一般の人たちには御理解いただけません。

多くの方は、東京にある国立の博物館や上野の有名な博物館等をイメージするわけです。今開催されている兵馬俑展や西洋美術館であれば世界の名画等を文化財として想像します。それらは全国から人が集

まります。

ところが、地方の博物館ではそういったことはできません。それだけのお金もありませんし、絵画1枚にかかる保険料だけでも大変なものです。また、スポンサーもなかなかいないわけです。そういった点で地方の博物館にてお客を確保することは大変なことなのです。国のような、財政的な基盤があるところと地方の博物館とが同じ土俵で競争することはできないわけです。

例えば、ある地域の図書館を閉館するとなったとき、その地域の人は大反対すると思います。今まで気軽に行けたものが、電車や車を利用しなければいけなくなるからです。ところが、博物館を統廃合して廃止することになった場合、実際に、旧埼玉県立博物館では、統廃合を行ったのですが、多くの県民や地域の方は反対したと思いますか。ほとんど反対はありませんでした。県立博物館は地域の人に認められておらず、必要と思われていませんでした。

博物館行政について、もう一度考え直さなければなりません。私が館長の際に、地元の方、博物館から約200mの距離にいる町内会長の方でしたが、その方へ挨拶に伺った際、館長が挨拶に来たのは初めてだと言われました。また、博物館が何をやっているかよく知らないと言われました。県立博物館は全県民を対象としたものであり、地域に根差さなくてよいという考えがありました。

しかし、よく考えると、県民というものは、具体的に捉えるという

ことが難しい面があります。市の規模であれば、市民としての意識、対象も把握しやすいわけです。いわば、漠然とした幻の県民を相手にいろいろな行事をやってもうまくいかないわけです。何よりもその地域の地盤を固める、そこから始めるということがなかったわけです。自分の利益のためになっていなければ、博物館が閉館となろうが関係ないわけです。地域の方へ博物館の閉館の説明会を行いました、誰も来ませんでした。それはショックでした。今までの博物館に係る行政が全く否定されてしまったわけです。入館料をいただいて、自分の給料をもらうという精神がなかった面もあります。やはり、学芸員の中には、自分は研究者であり、研究し展示をすることをやればよいという考えを持つ人もいたかもしれません。

そこで、反省し、特別展の前に地域の方をお呼びし、事前に内覧してもらおう等、いろいろな付き合いをはじめました。今まではポスターも全く掲示してもらえませんでした、掲示してもらえるようになりました。そういったことがなければ、誰も来てくれません。学芸員がいかにも最高の研究をし、素晴らしい展示であると自分で思っている、1,000万円かけた展示で、来館者が10人程度しかいなければ、その展示は大失敗であるわけです。

所沢市には埋蔵文化財調査センターがあります。埋蔵文化財とは不思議なものであり、1万年前でも5,000年前の資料でも、発掘すると数多くの資料が出てくるわけで、日々資料がいわば生産されてい

るわけです。古代、中世の文書等はたまたま発見されることはありますが、ほとんど出きってしまっています。ところが、埋蔵文化財は、現在の我々が、資料を増やしているわけです。埋蔵文化財は地中に埋まっているため、どんな重要なものがあるのか、わかりません。そのため、埋まっているものは、全て埋蔵文化財として扱うことになり、膨大な資料が出てきますので、保存等で困るわけです。国も埋蔵文化財保護行政のあり方として、埋蔵文化財に係る施設、機関等へ補助金を出しています。

所沢市は、その点では埋蔵文化財保護行政が進んでいますので、専用の施設を建設したわけです。その頃は、ちょうどバブル経済期で、国の補助金をもらうことになったのですが、入札が不調に終わったため、1月に入って補助金を返納するということがありました。その後、所沢市は国の補助金を一度返納したため、市単で今の埋蔵文化財調査センターを建設したわけです。ミヤコタナゴが埋蔵文化財調査センターに飼育されていますが、なぜ埋蔵文化財と関係ないものがあるのかということについては、国庫補助を受けておらず、市単での事業であることから、目的外使用ができないといった制限がないためです。これは補助金をもらわないことのよい面ではありますが、財政的には損をしているわけです。

埋蔵文化財の特徴の一つに、類似した資料が数多くあるということがあります。瓶が何百と出てくることがあります。昔の一般大衆、民

衆が使用した資料ですので、膨大な類似品があるわけです。その点は博物館とは違う面です。埋蔵文化財調査センターの資料は、いわば図書館の本と似ているわけです。そのため、埋蔵文化財調査センターは、博物館とは違い、その類似品が多くあるということを利用して、学校への貸し出し等、いろいろな活用ができる面があります。多少なり壊れたとしても、石膏で接着すればよいわけです。学校に行き、文化財はどのように扱うという作法を教えることもよいことであると思えます。現物を見ると、子どもたちの目が違います。埋蔵文化財調査センターの資料を見ると、貸し出し件数が多いです。博物館については、通常その資料を貸し出すことはありません。埋蔵文化財調査センターは、同じような資料が膨大にあるため、活用の範囲が博物館よりも広いのです。

次に、なぜ文化財は守らなければならないかということについてですが、私もこの問題を長く考えていました。結論としては、温故知新ということですが、温故知新は当たり前であると思ひ、見向きもしなかったのですが、学ぶにつれて、温故知新というものは、古くて新しくて重い言葉であると思ひます。私はいつも学生に言っているのですが、現在は過去の最先端であるということです。私が今話していることは、すぐに過去になっていくわけです。我々は膨大な過去を持っているわけです。経験や先祖の教えといったものもそうです。1時間先というのは我々にはわかりません。未来について考えるとき、どこから未来

を考えるかということ、過去の中から未来を作り出していくわけです。昨日のことを忘れて、ゼロから出発することでは生活できないわけです。今までの自分の経験値から未来を予測し、先の計画を立てるわけです。会社でも、家庭でも、世間でも、研究の分野でもそうです。未来は過去にあると言えるのです。そのため、世界各国では、古代ローマやギリシャについても、古くから、歴史を残そうとしてきたわけです。先祖が残したのから我々はさまざまなことを学ばなければなりません。

誰が文化財を守ってきたのかということですが、原始時代においては文化財の保存という考えはなかったでしょう。食べることで精一杯です。文化財を残そうと思うようになるのは、古代国家等が誕生してからであると思われます。正倉院というものがありますが、当時のものを誰が守ってきたかと言えば、天皇と貴族であります。庶民はどのようなものにも興味はありませんでした。大王や貴族は、いわば公であり、公が文化財を守ってきたのです。ほかには神社仏閣が守ってきたわけです。神社仏閣は、収蔵庫、博物館、保管庫であったのです。何より、文化財保護は平和でないと行われません。江戸時代には、大名が文化財保護を担っていました。大名もいわば公です。明治においては、政府が神社仏閣に補助金を出し、文化財保護を行っていました。

近年では、事業で成功した社長等が資料を集めていることも多いです。そのようによいものは残っています。しかし、庶民の使用したも

のはほとんど残っていません。それらは今どこにあるかという、アメリカのピーボディ・エセックス博物館にあります。エドワード・モースという人が明治のものをアメリカに持っていき、保存したのです。どこにでもあるものは誰も目を付けません。

文化財は公が残して今に伝わっているものがほとんどです。今は貴族も大名もいなくなり、あとは個人の資産家が購入したりしていますが、個人が所有していても、しっかりと保存する義務があるわけです。個人においてもそうした義務があるわけですので、公であればもっとそうした義務が求められます。

所沢市の文化財行政についてですが、埋蔵文化財調査センターは、埼玉県でもそういった施設は5つしかなく、全国でも71施設ですので、埋蔵文化財に係る調査、収蔵機関を有するという点では、県内でも優れています。

植竹副委員長

高橋先生、大変ありがとうございました。せっかくの機会ですから、今のご講演の内容につきまして、市民の方から高橋先生にご質問がありましたらお受けしたいと思います。挙手をお願いいたします。

来場者

本日は、市議会の方がこのようなことを主催されたということで、非常に感謝しています。

私は以前、科学技術館館長の講演を聞いたことがありました。その

時は、所沢市が市制60周年を迎える時期であり、博物館建設に向けての議論があったと記憶しています。このときの講演の中で、所沢の博物館には、大きなコンセプトがない、もし建設するとしたら、武蔵野という大きなテーマになる旨の話がされ、非常に否定的な印象を受け残念に思いました。本日、先生の話を知り、市民、市議会、市等のいろいろな理解がなければいけません、非常に前向きな話を聞いて、ありがたく思いました。また、ある講演の中で、市民の熱望や希望が薄いなかでは博物館行政は難しいということをおっしゃいましたが、今日の話を知り、やはりいろいろな関係者が一体とならないと博物館行政は難しいと感じました。所沢市には市民文化センターミュージアムがあります。ミュージアムは、年数を経たことから、改修の必要性があるかと思いますが、その中で、美術室や所沢市の歴史がわかる博物館とは言わないまでも、そういったものを検討されたらいいかと思いますが。

講師

市民文教常任委員会の委員であっても、所沢市、川越市のあちこちに博物館はいらぬのではないかという意見があります。それも一つの考えです。私が以前から思っているのは、縄文から古代、近代までの通史での展示をやらなくてもよいのではないかということです。例えば、新田開発についてであれば、三芳町と共同で新田開発についての博物館設置を検討するといったこともできます。日高市は、高麗郡等、古代を中心に行い、川越市は、お城があるので、そういったこと

を行うなど、もっと気楽に考えてやればよいと思います。県で域内全体についての展示を行うことは不可能です。それは地域がやるしかありません。地域に博物館がなければ国に博物館があっても不十分です。歴史は下から積み上げていかなければなりません。そういったことから、所沢市の場合は、いったい何をテーマとして博物館を設置するのかということを地域の皆さんで考えていただければよいと思います。世界に羽ばたく場合、郷土を語れなければ、英語を話せても意味がありません。その基礎をつくることも行政の役目であると思います。

来場者

私は、当市に博物館が必要なかと疑問に感じています。今、所沢市では、生涯学習推進センター等でふるさと研究を行っています。また、埋蔵文化財調査センターもありますので、一定程度、文化財についてのインフラは整備が済んでいると考えます。私が思うに、所沢市には、美術館が是非とも必要であります。それこそ、希少価値のあるものが美術館であり、いわゆる庶民の生活の汎用品の展示というのは、どこでもできるのではないかと思います。先ほど、ミューズの話がありました。ミューズは他市の市民会館とはコンセプトが違います。いわゆるクラシックのコンサートホールであり、演説や舞台のための市民会館ではありません。所沢市の希少価値のある絵画、美術品の展示といったことが文化財より先に必要であるのではないかと思います。

講師

それも一つの見識であると思います。人によっては、民俗資料はどこにでもあり、それを集めて何になるという考え方もあるかと思いますが、それよりも美術館やコンサートホールをつくった方がよいという考え方もあります。市民、議員、市等、広く考えればよいと思います。絵画も広い意味では文化財かと思いますが、そうしたいろいろな意見はあってもよろしいと思います。

(第1部 終了)

(休憩 午後2時58分)

【第2部 政策討論会】

(再開 午後3時10分)

(座長・副座長・パネリストの自己紹介)

西沢座長

これから約1時間、所沢市の文化財保護の必要性について論点を3つに分けて議論を行いたいと思っています。このように並んで座っておりますが、文化財保護に賛成派、反対派という仕切りではありません。いろいろな意見がこの中から出ると考えておりますので、お聞きいただきたいと思います。

まず初めに「文化財の活用の仕方」ということで議論を進めていきたいと思っています。所沢市の文化財にはどのような価値があるか。先ほどの高橋先生のレジュメの中にも、博物館は文化財施設ではあるが観光資源でもあるということが記載されておりました。まず、所沢市の文化財は観光資源として活用できるのかどうか、皆さんのお考えを述べていただきたいと思います。では、挙手をお願いします。

大石委員

私は所沢市の文化財は観光資源になり得ると思っています。例えば、所沢市には「黄林閣」を含む4つの国指定文化財があり、県市指定の文化財が11、市の指定文化財が85あります。黄林閣などは、NHKでドラマ化された電力王といわれた松永安左エ門の建物でありまし

て、日本大学芸術学部の学生がこの中で発表会をするなど学生と一緒にこの建物を活用するということがあります。また、この近く、柳瀬の城というところでは、滝の城址を活用した戦国滝の城まつりというのを開催し、何千人も人が集まるような行事に育っています。近くに株式会社 KADOKAWA の進出も決まっておりますし、所沢市の文化財は、いろいろな知恵を出していけば、観光資源となりうるのではないかと思います。

西沢座長

所沢の文化財にはまだまだ観光資源があるという期待が膨らむような意見でしたが、これについて何かありますか。

入沢委員

例えば川越市と比較すると、川越市では地域の住民が主体となって、市民団体の力で「蔵づくりの町並み」を保存しています。それがNHKの朝ドラの舞台になったりもするわけです。同じベッドタウンとしての側面があるにしても、よい、悪いではなく、持っている観光資源が全く違うわけです。

昔、川越には川越藩がありましたが、関東地方では水戸藩に次いで大きかったわけです。そうしたこともあって明治時代にはいちばん人口が多かったといわれているところです。正直なところ、所沢市が川越市と同じようにやっていくことは難しいのではないかと思います。

実際に、朝霞市、戸田市、川越市の博物館を見てきましたが、川越市

は有料です。人を集められるということだと思います。所沢市では、お金を払って2回、3回でも歴史資料を見に来たいと一般の人が果たして思うかどうか。私は難しいのではないかと思います。

西沢座長

歴史的な背景を考えると、川越市のようなお城があるような都市の観光資源と比べたら難しいとの意見でしたが、ほかにご意見はありますか。

小林委員

観光資源かどうかということでご発言があったのですが、文化財の価値というのは、観光資源になるかどうかは基準ではないと思います。自分たちが暮らす地域がどのように形成されてきたのかを知る手掛かりになってくるものです。先人たちがつくり上げた所沢の文化というものを私たちが受け継いで、それをまた後世にバトンを渡していく役割があると思います。文化財を通して、先人たちの暮らしに思いをはせて、どのように文化を育んできたかを知ることから、郷土愛が育つのではないのでしょうか。

西沢座長

文化財の価値は観光資源に限られるものではないということですね。郷土愛を育てていくようなものにも価値を見出すべきだというご意見かと思いますが。これについてはいかがですか。

荻野委員

今、小林委員から、郷土愛という言葉が出てきて、口にするのが照れくさい感じもするのですが、所沢では昔から、冠婚葬祭の際にはうどんを食べる風習があります。そういったことも、広い意味で文化財につながるのではないかと思います。昔は水の便が悪く水田耕作に適さない地域だったために、陸稲から焼き団子が作られるようになったということもあります。先日視察した戸田市立郷土博物館では、昔から大きな川があるため、大きな舟など漁業に関連するものがありました。こうした地域の伝統を大切にしていって郷土愛を育むということは、文化財や博物館の大きな役割のひとつではないかと思います。

西沢座長

三ヶ島で育った荻野委員らしいご発言でした。

植竹委員、別の観点で何かありますか。

植竹委員

文化財を通じた郷土愛という話になりましたが、郷土愛と聞いてふと思ったのですが、都市部の地方選挙の投票率がどこも同じように低いように思います。昨年の所沢市議会選挙の投票率は39%、同じ年に行われた市長選挙が37%であり、国政選挙と比べると15から20%程度低い状況です。これは、所沢市の人々が地域のことや地域の歴史をよく知らないということから所沢市の課題が見えてこないということがあるのではないかと思います。地元愛が育まれてないところが投票率低下にもつながっているのではないのでしょうか。

西沢座長

地域を知る、郷土を知るといことがおろそかになっているという課題もあるのではないかとということです。昨年、所沢市議会議員に最年少で当選した石原委員は、これについてはどう考えますか。

石原委員

私も常に投票率は非常に気になっており、市民の方もお感じになっているのではないかとと思いますが、特に若い世代の投票率が所沢市では低い状況です。10人中、2人から3人ぐらいしか投票所に足を運んでいない現状があります。若い方でも所沢で育った方はたくさんいらっしゃると思います。先日、新成人と話す機会がありましたが、投票に行きますという声は聞こえてきたのですが、数字としてなかなか伸びません。やはり郷土愛があって郷土に対する思いがあるから、地域の課題にも目が向くということもあるのだと思いますが、植竹委員のご指摘はそういうことでしょうか。

植竹委員

そのようなこともいえるのではないかとということです。今年6月から選挙権の年齢が18歳へと引き下がることに決まりましたが、若い世代にもっと郷土に関心を持ってもらうには、小学校ぐらいからの郷土学習にそのベースがあるのではないかとと思います。そういう意味では、所沢市に今ある貴重な文化財をもっと教育現場で活用すべきだと思っています。

西沢座長

文化財の活用がいまひとつ活発ではないことがそうした現状を生んでいるのではないかとというようなご意見でしたが、ほかにもご意見はありますか。

石本委員

話を戻させていただいて、観光資源になるかどうかということについて、私は、観光資源には大きく2種類あると思っています。1つは川越市のようにとにかく一度は行ってみたいというところ、もう1つは、何度も何度も行ってみたいというリピーターをつくれるところです。最近、歴史好きの女性が話題になっていますが、こうしたいわゆる歴女が史跡を訪れることが全国でニュースになっていますが、特定の客層から支持を受け、リピーターを生み成功した事例は多くあると思います。これを所沢市にいかに関わり込むかということです。PRのやり方によっては観光資源になるのではないかと思います。

西沢座長

確かに観光資源としての可能性はあるかと思うのですが、所沢市の文化財というものを所沢市民がどのくらい知っているのかという課題もあります。高橋先生の講演の中で、県の博物館の統廃合に対して市民の声がほとんど上がらなかったというお話がありました。果たして文化財は私たち市民にとって身近な存在なのかどうか、パネラーの皆さん、どのように感じますか。所沢生まれ所沢育ちの委員もいれば、

他市から引っ越してきた委員もいますが、地元育ちの大石委員からご発言いただけますか。

大石委員

ご紹介のとおり私は所沢生まれ所沢育ちで、公益社団法人所沢青年会議所で地元のまちづくり運動に30歳ぐらいから参加させてもらっています。先ほど入沢委員から川越市の蔵づくりの話が出ましたが、私は所沢市の旧庁舎周辺にある伝統的な建造物をもっと活用したいと想着いて、そのひとつとして蔵の中でのコンサートを開催しました。秋田家の主屋等が登録有形文化財に登録申請されましたが、現在、蔵づくりといえば、いわゆるまちぞうと言われている建物もそうで、前身である井筒屋街造商店を移転して活用していますが、解体作業にも参加しました。文化財の展示も一緒にさせていただいたりしていますので、文化財は身近に感じています。

西沢座長

大石委員は非常に身近だということですが、石原委員も所沢生まれ所沢育ちですね。

石原委員

そのとおりですが、逆に私の場合は、所沢市の文化財や郷土を身近に感じる機会はなかなかありませんでした。先ほど植竹委員から郷土学習の話がありましたが、確かに小学校の時に郷土について勉強しました。ただ、授業で少し触れたという程度の記憶しかありません。特

に私が育った地区は高度成長期に開発したベッドタウンでしたので、郷土の成り立ちを語られる方はいませんでした。私が小さいときに住んでいた地区は、どこのデベロッパーが開発してどこの銀行が融資をしてくれたという話は結構聞いていたのですが、どのような成り立ちでこの地域ができたというところまでは大人でも知っている人はいなかったのではないかと思います。大石委員のように、近所に古い施設があって子供のころから触れる機会があってという、シンボルになるようなものはありませんでした。大石委員をうらやましく思います。

西沢座長

石原委員は平成生まれですか。

石原委員

昭和63年です。

西沢座長

恐らく所沢市民の中にも、同じ地元で育った方の中にも、そういった感覚の違いはあるかと思います。私もそうですが、植竹委員は引っ越してきていますが、どうですか。

植竹委員

私の場合は、平成15年に所沢市に引っ越してきましたので、所沢市の教育現場において郷土の歴史を学ぶ機会はありませんでした。所沢市の文化財に関心を持つような機会も今まではなかったです。

西沢座長

私は他県から引っ越してきましたが、比較的、興味がありました。地元には国指定の文化財、小野家住宅もありましたし、所沢市の成り立ちにも興味があつて調べた経緯もあります。同じ引っ越し組でも違いますので、市民の皆さんの中にも様々なご意見や感覚があるのではないかと思います。そうした現状をもとにして、では、文化財をどのように活用すれば、もっと身近に感じてもらうことができるのでしょうか。パネラーの皆さんのお考えをお聞かせください。

入沢委員

これから人口は減少していくと思います。私と兄弟は所沢で育っていますが両親の生まれ育ちは所沢ではなく、いわゆる埼玉都民の2世です。ほかの場所に住みたいけれども親の介護のこともあり、多少不便でも自分が育った所沢市に住み続けようと思っています。このように住み続けようと思う人間を増やしていかないといけないと思っています。所沢市で育った人を外に出さないということが重要です。そのためには、子ども時代のまっさらな時に所沢の文化財に思いをはせるような経験、文化財や郷土の知識を持たせるようなことをもっと小学生に進めていかなければならないと思います。例えば、先ほどの高橋先生からもお話がありましたが、埋蔵文化財調査センターでは土器の貸し出しもされているということでした。しかし学校への貸し出し件数はあまり多くないと聞いていますので、もう少し工夫して、体験学習、郷土愛を育む学習をしていくことも文化財の活用の1つかと思います。

ます。

西沢座長

貸し出しをもっと活発にしてはどうかということですね。埋蔵文化財調査センターの貸出件数ですが、平成24年度が4件、平成25年度も4件、平成26年度はなんと2件。私たちはそうしたことも考えていかなければならないと感じます。ほかにご意見はありますか。

大石委員

埋蔵文化財調査センターでは、土曜日・日曜日はお休みですが、近くでお花畑の公開をやっていた時には、お花畑での農産物の直売が行われる土曜日・日曜日に合わせて埋文まつりというのをやっていました。私も、古代人の格好をして写真を撮ったりさせてもらいました。ほかにも土器の作成や火おこし体験をするコーナーがあり、埋蔵文化財調査センターの皆さんが知恵を出してやっていました。現在は子供の夏休みの時期にまつりを開催しているようで、努力をされているようです。先ほどの高橋先生のお話にもありましたが、やはり、本物に触れるということが大切です。そうした知恵を出していくことと、入沢委員の話にもあったように所沢らしい体験を子供たちにしてもらいたいので、例えば、所沢飛白という織物の講習会ですとか、三富地域の農業での落ち葉はきや下草狩り、農業体験、そういった歴史とセットでの体験に、今後取り組めたらよいのではないかと考えています。

西沢座長

方策がまだまだあるのではないかとということですが、女性の観点と

しては小林委員、いかがですか。

小林委員

私も所沢市に来たのは小学5年生の時、学校は中学校から所沢市でした。所沢の郷土を知る体験はなかったと思います。子供たちにどのように所沢を知ってもらおうかということを考えます。私には小学校低学年と保育園に行っている孫がいますが、男の子で戦隊ものが好きなので騒がしくしていますが、保育園で絵本を読んでもらっている時の子供たちは非常に集中して聞いています。子供たちにとっての絵本の力のすごさを感じました。子供たちに郷土のことを知ることができるよう絵本を作ってはどうかと思います。以前、教育委員会で郷土かるたも作られました。所沢市にも郷土ならではの昔話があります。「ネズミと焼きだんご」、「動物の餅運び」、「弘法の三ツ井戸」、「あっちいちいの新光寺」、「河童のわび証文」、「鼠薬師」などあります。こうした昔話や民話を含めて所沢の歴史を絵本にしたら子供たちにも身近なものになるのではないかと思います。

西沢座長

文化財の活用についてさまざまなアイデアをご披露いただきました。この後、市民への文化財や歴史資料の見せ方、つまり展示の方法や資料の管理についても考えていかななくてはなりません。

さて、先ほど、高橋先生からも市民の方からも博物館構想のお話がありました。今日、会場にお集まりの皆さんの中に、所沢市にも博物館基本構想というものがあることをご存知の方はどのぐらいいらっしゃる

やいますか。結構たくさんの方がいらっしやいますね。実は所沢市には博物館基本構想というのが以前立ち上がり報告されたものの、今なお結論が出ていないといえますか、引き続き構想は残っているという状態です。ここで2つ目の論点として「博物館は所沢市にとって必要な施設か」ということで議論していきたいと思えます。

では簡単にこの構想の説明をいたします。平成7年3月議会において、当時の齋藤市長が施政方針演説の中で、市政施行60周年記念事業として博物館の建設について専門委員会を設置して検討を進めるとして触れたものです。その後、博物館建設のための市民懇話会というものが設置され、平成10年には、博物館の役割や目的や進め方などについてまとめた「所沢市博物館建設のための提言」というものが提出されました。そして同年、所沢市立博物館基本構想策定委員会が発足し、平成13年までに8回会議が開かれ、平成14年5月にこの基本構想が報告されました。その報告書の中には、博物館には、所沢学、武蔵野学をコアにしていこう、キーワードにしていこう、施設の規模は少なくとも敷地面積1万㎡は必要であろうということ等に触れています。その後、平成21年に旧並木東小学校跡地に開設されました生涯学習推進センターにふるさと研究エリアが設置されましたので、博物館設置準備活動については、引き続きそこで行っていくとしていました。それでも、市内にある文化財を保護・管理していくという意味で、収蔵庫についてはこれからの課題としているのが現状です。

では、こうしたことを踏まえ、所沢市に博物館をつくったほうがよいのかどうかということについて議論を進めていきたいと思います。

これについてはどんな意見をお持ちでしょうか。

石原委員

実は、私はこの博物館基本構想について、市民文教常任委員会に所属して文化財の勉強をしていく中で初めて知りました。西沢座長から先ほど紹介がありましたが、敷地面積が1万㎡、調べたところによれば常設展示室、企画展示室、収蔵展示室、映像ホール、講義室、情報検索室、図書室、資料収蔵庫、燻蒸室、撮影室、研究室、事務室、会議室、ボランティア室、託児室、荷解き室、さらに快適なエントランス、レストラン、ミュージアムショップ、また地震等の災害に耐えられる構造でなくてはならないと書いてありました。今、これをつくることになっても恐らく数十億円の費用がかかるものと思います。平成14年の博物館構想が、平成28年の現在も形を変えることなく、どちらともつかずに残っていることに率直に驚きを持って受け止めています。

西沢座長

非常に驚いている、びっくりぽんということですね。これについて何かご意見はありますか。

荻野委員

私は、基本的には所沢市に博物館はあったほうがよいと考えていま

す。議員という立場ですので、法的な観点からも考える必要があるか
と思い、改めて博物館法を見直してみました。第3条の8には「当該
博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化
財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利
用の便を図ること」という規定がありました。所沢市のような34万
人都市が博物館を持たないで、その役割を実行できていないというこ
とは、法律の趣旨に沿っていないということがいえるのではないです
か。財政状況を勘案するという事は当然のことですが、財源を確保
する手法もさまざまにあると思いますので、可能性を探ってみたいと
思います。

西沢座長

手法はさまざま、可能性を探る必要があるというご意見でした。ほ
かにもご意見はありますか。

石本委員

確かにそうしたことも理解できます。しかし、現実問題として、博
物館構想もいまだにある。そして収蔵庫をつくる構想もあるようで
すが、財政としては厳しいのではないかと思います。特に博物館基本構
想は齋藤市長の時ですので、前の前の市長、教育長も前の前の鈴木教
育長の時の策定です。教育委員会は、この博物館基本構想自体を無形
文化財にしたいのかと皮肉を言いたいぐらい、店晒しになっているわ
けです。所沢市の公共施設の計画によれば新たな施設は今後造らない

という方針になっています。高橋先生の講演にもありましたが、他市との協力ということも含めて、博物館ではないほかの方法を考えるべき時期に来ているのではないのでしょうか。

西沢座長

文化財保護は博物館という形だけでなくもよいだろうという視点かと思いますが、これについてはどうでしょうか。大石委員。

大石委員

それでも必要な部分はあるわけで、川越市の博物館で夏に妖怪の展示をしている時に行きましたら、子供たちもたくさんいて混んでいると感じました。それでも年間10万人ぐらいたそうです。所沢市にも県の施設ですが所沢航空発祥記念館というものがありますが、零戦を持ってきたときに私はスタッフとして働いており、38万人の来場がありました。通常では年間20万人が来場する状況とのこと。所沢市に博物館をつくった時にそれだけの人が来るか、費用対効果が出るかといったら厳しいと思います。それでも博物館の機能を備えたものは、市内のどこかに設置すべきだと思います。

西沢座長

ほかにご意見はありますか。

入沢委員

博物館には定義がないと思います。例えば、この部屋ぐらいのところに文化財を置いて、これが博物館だと看板をつけてもよいのではな

いかと思います。文化財を見せるという意味では博物館は必要だということとは皆さんも同じ意見ではないかと思います。川越市立博物館は立派な博物館で来場者もたくさんいて、実際におもしろい博物館でした。一方で朝霞市博物館の展示にはあまり魅力を感じませんでした。収蔵庫はとても立派でした。人に見せるという観点でいえば学校や公民館があります。先ほど市民の方からはミュージズというお話もありました。要するに博物館的なものは必要なのだと思いますが、いろいろな政策がある中で優先順位を考えた時に、どの程度のものをつくったらよいのかということが今後の課題なのではないかと私は思っています。

西沢座長

博物館があったほうがよいかどうかと問われればあったほうがよいが、政策の優先順位があるということですね。先ほど、市民の方からの質問の中では美術館を優先すべきだというご意見がありました。平成14年の博物館基本構想のような何億円もかかるような施設をつくることは難しいのではないかという共通認識が皆さんの中にはあるようです。しかし博物館のような機能はあったほうがよいということですね。では、どのように代替していくのか。これについてどのようなお考えがあるかお聞かせください。

石本委員

意見の前に一言、朝霞市博物館のために申し上げますが、私は展示

に魅力がないとは感じませんでした。さて本題ですが、博物館の盛況ぶりをはかる指標の1つとして、入場者数、来場者数というものがあるかと思います。そうした視点で視察に行った博物館を見てみると、入場者は地元の小・中学生が中心です。保存環境・保存状態ということを無視して申し上げれば、例えば校舎の空き教室のような既存施設でも、施設としてのキャパシティとしては十分にあると思います。

西沢座長

今の石本委員の意見についてはどう考えますか。

植竹委員

平成14年の博物館基本構想に沿った施設の建設については実現の可能性が低いとしても、市民文教常任委員会として3箇所の博物館を視察しました。そして所沢市は保管スペースに課題があると感じました。貴重な所沢市の文化財を管理・保管する機能に特化した収蔵庫といった施設が所沢市には必要なのではないかと考えています。

西沢座長

きちんとした保護管理という意見ですが、これについて意見や感想はありますか。

小林委員

視察を行い、そこで感じたことは、収蔵庫がしっかりしているということでした。所沢市には平塚宗臣氏が運営管理している所沢郷土美術館がありますが、ここは長屋門などが国の登録有形文化財になって

いて、市の指定文化財、双鳥草華文八稜鏡があります。参考人として
お呼びしたとき、火事になったら取り返しがつかないというお話があ
りました。視察に行った博物館でも防火対策や燻蒸などはしっかりと
されていました。ほかに代わるものは二つとしてないですから、きち
んと保管できる状況という観点から、収蔵庫は大切だと思います。

西沢座長

ここで収蔵庫の話が出ましたが、先ほどの講演の中でも、文化財は
1点ものなのだというお話がありました。これをきちんと保管するた
めには収蔵庫は必要であるというご意見でした。

さて、3つ目の論点として、今後の文化財の保護の在り方をどのよ
うにすべきなのかということについて議論していきたいと思います。

これについてどなたかご意見はありませんか。

大石委員

今、所沢市に文化財をきちんと保管できる場所がないという問題で
すが、平塚氏が参考人でいらしたとき、航空発祥の地としての貴重な
資料が、所沢市には保管できる場所がないのでほかのところに寄附を
された、そういうものが多いという話を伺いました。所沢にゆかりの
ある資料がきちんと所沢市で保管されて、貸し出したり、体験に活用
したりできるように、収蔵庫はつくるべきだと思います。

西沢座長

収蔵庫をつくるべきだというご意見でしたが、これについてご意見

はありますか。

荻野委員

私は個人的にお茶を嗜んでいるのですが、どんなに貴重なものでも、それを箱の中に入れて大切にしているだけでは価値がなくて、使ってみて初めて価値が出るとよく言われます。他市の博物館の視察でも、公開し、鑑賞してもらい、親しんでもらうことに価値があると感じました。収蔵庫をつくった場合には、ある程度の展示スペースも必要ではないかと思っています。財政的な事情もありますので、博物館とはいえない規模になるかもしれませんが、そうした機能を持たせて積極的に活用していくことも大事だと思います。また所沢市では指定文化財も個人の所有で非公開だったりするので、展示スペースがあれば、例えば期間限定で公開することもできるのではないかと考えています。

西沢座長

展示スペース等も設置した方がよいとの意見でしたが、ほかにありますか。

石原委員

現在、市内各所に点在している保管場所を、収蔵庫を造ることにより一括保管とすれば、管理の観点からは効率的であると思います。しかし、一括管理するのであれば、重複する資料は除くことや、保存すべき資料の優先順位をつけるなどして、明確な基準やルールを設けることが必要だと思います。文化財行政は骨董コレクションをしている

のではないのです。あれもこれも保存するのでは、収蔵庫がいくらあっても足りません。朝霞市博物館に視察に行った際、収蔵庫には、家庭用ゲーム機のファミリーコンピュータ、おもちゃのミニ四駆が保管してあり驚きました。所沢市在住の経済学者、森永卓郎氏がB宝館とってご本人が興味のあるものをたくさん集めて公開していますが、私立としてはそうしたやり方はあるだろうと思います。しかし、文化財行政としてみると、そういったコレクションとは意味合いが絶対的に違ってくると思いますので、納税者の方にも納得してもらえような基準で保存し、後世に伝えていくことが必要だと思います。収蔵庫を1つ造った後に、2つ目、3つ目の建造にも繋がっていくと思うので、まずルールというものを先に作っておく必要があると思います。

西沢座長

はたしてファミリーコンピュータが文化財になるのかという意見かと思うのですが、他に収蔵庫について何かありますか。

入沢委員

収蔵庫をつくるのであれば、あった方がよいのでしょうか。今、所沢市には山口、富岡、柳瀬地区に民俗資料館があり、地元の保存会の方へ管理を委託しています。その中には地域の民俗資料を外に出したくないという意見があります。これは、所沢市は町と村が合併してできたという歴史があることから、村の成り立ちを地域の手で守り伝えていきたいという郷土愛から来るもので、そのことが大切なのではない

でしょうか。一括保管という考え方は、どうしても所沢市の歴史にそぐわない部分が今の段階ではあるのではないかと考えます。保存会の方は村の成り立ちにも意識が向いていますし、一生懸命に活動されていますので、資料をどこかほかに持っていくということはまだ早いのではないかと思います。

西沢座長

これについてはどうでしょうか。確かに市内には3カ所の民俗資料館があり、非常に地域との結びつきが強い傾向があるので、これを一括管理するのはどうなのかという意見ですが、どうでしょうか。

小林委員

私は収蔵庫が必要だという意見を持っているのですが、地域限定の民俗資料館での保存・保管とに分けていくことも必要ではないかと思っています。自分たちの地元にも地域の資料館があればよいという声も出てきています。地域の歴史の伝承ということを考えるとそれぞれの地域で文化財を守るという意思も尊重しなければならないと思います。

西沢座長

先ほどの石原委員の話とも通じる部分かと思うのですが、何を残し、何を伝えていくかという、その仕分けが大事ではないかということかと思っています。他の観点でもありますか。

石本委員

これから地方自治体が財政的に厳しくなっていく中で、文化財は予算を切られやすい項目だというのは議員の中では共通認識だと思います。私は今回の調査を通して、広域という視点を検討していくべきではないかと思っています。高橋先生の講演にもありましたが、入間市、狭山市にも博物館があるので、全部を展示しなくてもよいといったことも含めた広域の視点で考えていく時期に来ているのではないかと思います。

西沢座長

この収蔵庫について、他にはありますか。

荻野委員

資料収集の基準作りの必要性、地域での保存、継承という話もありましたが、そういったことを実現していくためには、継続的な人材の確保や育成も必要なのではないかと考えます。現在、市の文化財の担当者も大変愛着を持って仕事をされていますが、若い人を育てることも必要です。地域でも保存の活動をされている方は年代の高い方が多いと思いますので、若い人の育成も、博物館の有無に係わらず中長期的に考えていく必要があると考えています。

西沢座長

ハード面の整備だけでは駄目であり、ソフト面も必要だということですね。種々、議論がありましたけれども、残り時間も僅かになりました。最後にこれだけは言っておきたいということがありましたら、

パネルも利用して、今回は時間が少ないので30秒程度で発表してください。

大石委員

「誇り」と書きました。川越市では蔵づくりを保存してまちづくりを成功させ観光客もたくさん来ていますが、それは地元の人が危機感を持って取り組んだことが今に繋がっているわけです。所沢駅西口にある所沢車輛工場跡地は、飛行機の格納庫であったといわれておりますが、解体される予定であり、その見学もできず非常に残念でした。そんな状況ですが、所沢に愛着を持ち、誇りを持って文化財行政に取り組んで参りたいと思っております。

入沢委員

私は、廃校になった「学校を博物館に」ということを言わせていただきます。今後20年も経てば、学校や道路、水道管等を修理しなければならぬ時代が来ます。それにはものすごいお金がかかります。そのような中では立派な収蔵庫は難しいと思います。先ほど地域での分散管理という話もしましたが、保存会の方も地域でずっと活動できるかどうかは分かりませんので、将来的には一つのところにまとめなければならない時代が来るかもしれません。実際に空き教室や廃校を使っている様な例もあるので、その方向ではないのかと思います。

石原委員

パネルには「説得力でムードを作る」と書きました。文化財行政の

最終目的というのは、郷土の歴史文化というものを後世に伝えていくことにほかならないと思います。ただ現在は、市民の方から見えにくく、何が保護されているのか、保護されるべきなのか、どんな事にお金が投じられているのか分かりにくいイメージになっています。多くの人に理解していただくための説得力を、努力して市民全体で大事にしていこうというムードを作っていければと思っています。

荻野委員

文化財にかかる情報発信、活用保護についての2点を提案させていただきます。1点目は「デジタルアーカイブの活用」で、文化資源をデジタル化して保存し、ウェブ等で公開していくものなのですが、財政的には地方創生の関連予算や文化庁の補助金を活用してデジタルアーカイブ化すると本物のようになるという効果もあると思います。所沢文化遺産案内マップをスマートフォン等のアプリケーションとして作成することもよいと思います。もう1点は、「現代アートとのコラボレーション」。旧所沢市立第2学校給食センターを拠点とした引込線という所沢市に在住する数名のアーティストを発起人とした美術展もありますので、中富の民俗資料館とコラボ企画ができないかとも思います。今後、そういったことも考えていただきたいです。

小林委員

私は、「まちごと文化財、博物館」にしていくということを提案させていただきます。文化財というのは広い定義があり、

ヨーロッパでは、まちなみの保存がされているといわれています。文化財保護などの視点でまちづくりが必要ではないかと感じます。解体された歴史的価値がある建造物も復元していくことや、砂川遺跡、三富新田、狭山丘陵等、長い歴史で創られた景観も大切に保存していかなければならないと思います。新しい道や交差点名、町名などにその地に由来する歴史的名称も残していくことも進めていただきたいと思います。そのための文化財保護行政の充実としては各課の連携や専門職の育成が必要だと考えます。

植竹委員

私は「教育現場で活用」と書かせていただきました。文化財を活用した学校教育のさらなる推進を図るべきと考えます。なぜなら所沢市の歴史を学び、知ることで、これまで以上に地元地域に対しての郷土愛が生まれることに必ずつながると思います。そして誰もが住み続けたいまち所沢が文化財を活用することでできると思っています。

石本委員

私は「教育委員会をはっきりすべき、どうするの」と言いたいです。博物館構想、収蔵庫の構想も含めて、今後これを決めない限り大変だと思います。文化財行政と言うのは寄贈してくださる方にも支えられています。仮に、私に500万円の掛け軸があつて、どこかに寄贈するとしたら、今回、視察等で調査する以前だったら、所沢市に寄贈していました。しかし、調査をした後は、川越市に寄贈したいと思いま

した。それは、川越市の方が、50年後、100年後、よりよい保存をしてくれていると感じるからです。そのため、この博物館基本構想について、収蔵庫も含めて今後の方針を早く決めなければ、寄贈してくれる方の気持ちを踏みにじることにもなりかねないので、是非はっきりしていただきたいと思います。

西沢座長

今回は3つの論点について議論を行って参りました。所沢市の文化財の活用については、観光資源だけでなく郷土意識を育む重要なツールであること、博物館については博物館構想で示されるような規模でなくともその機能をどう引き継ぐのかは重要な課題であること、また文化財を保存・管理する収蔵庫の必要性は共通に認識するものの、設置のあり方については、なお検討課題があること等を確認することができたと思っております。この後は委員会で討論の内容を精査し、何らかの形で市民の皆さまにお示ししていきたいと思っております。

本日は、長時間のご清聴、ありがとうございました。

【高橋先生のご講評】

高橋先生

行政側の文化財行政についての研究は長く携わってきましたが、このような議員の方の話を聞くのは初めてのことです。行政側にいた人間から見ると、見識が高いと感じました。我々行政の側は、狭い範囲で考えていたと感じました。やはり議員の方は勉強しているし、その

背後には市民の方がいらっしゃるわけです。また、川越市の話がよく出てきましたが、川越市は大名がいたところであり、あれは、新聞記事で言えばトピックスです。川越市のようなところは埼玉県ではほかにありません。川越市と比較しても詮無いことです。川越市を大名に係る文化とすれば、所沢市は庶民に係る文化であります。歴史は大名だけではありませんので、所沢市には所沢市のよさがあります。市議会と市の行政がプロダクションだとすれば、やはりもっとよさを見つけて売り出す必要があると思います。川越市は確かに民家をよく保存していると感じました。あれだけ保存しているところは、ほかの市町村ではあまりありません。これから大変なのは、文化財を500年先まで保存していくことです。行政は、市民に永久に文化財を残すことを約束しています。これからは、こうしたものの保存にお金がかかります。500年後に今のものを残したとしたら法隆寺並みの価値になってきます。ブラタモリが来たとなればさらに観光資源になります。文化財は、今はたまたま残っていますが、次第になくなっていきます。500年先、1,000年先まで残せたとしたら、すごいことです。保存すれば活用もできます。これをぜひ忘れないでください。収蔵庫についてですが、確かに、民俗資料は保管に場所を取ります。民俗資料は、人が作ったものであり、技術ですので、例えば、縄文土器は現在では復元できません。ものを選択して保存することも大事ですが、記録保存も重要です。重要なものを記録し、何かのときに復元できる

ようにしておくことが民俗資料の強みであり、その両面で対応を考えてみてはどうでしょうか。全部やろうとすると行き詰ってしまいます。500年経てば全部国宝になります。ぜひ、よいものを残し、残したものは責任を持つことです。所沢市民は代々、指定したものを残すぞという意識で取り組んでいけば、また違うと思います。

(第2部 終了 午後4時24分)

植竹副委員長

ありがとうございました。

それでは、石本亮三委員長より閉会の挨拶を申し上げます。

石本委員長

本日は、最後までお付き合いいただき誠にありがとうございます。委員会を代表し、感謝申し上げます。本日の政策討論会では文化財というテーマを取り上げましたが、私たちの先輩の議員も、かねてから取り上げてきています。議会の議事録を所沢市議会のホームページで御覧いただけますが、多くの議員が質問していることがわかるかと思えます。お時間あれば御覧ください。議員の中には、収蔵庫、博物館を造るべきという意見の人もいれば、そういったものはお金がかかるからいらぬという意見の人もさまざまあります。今後、どのような方向になるかわかりませんが、委員会としては、市に提言等をしていくという方向性を、8人の委員全員で共有していますので、注目していただければと思います。今回、文化財を取り上げましたが、本日こ

の場に来られないという方から、三ヶ島葎子資料室にある「吾木香」の色が褪せてきているため、展示されなくなってしまった旨のメールをいただきました。こういった現実を知っていただきたいということでした。なかなか文化財は今まで脚光を浴びてこなかった部分ですが、今後、さらなるお声を私たちにお寄せいただければと思います。

本日は、お寒い中、お越しいただき誠にありがとうございました。

植竹副委員長

以上で、市民文教常任委員会による政策討論会を終了いたします。

本日は、誠にありがとうございました。

(散会 午後4時30分)